

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090300049		
法人名	社会福祉法人 福音会		
事業所名	グループホームとばた		
所在地	福岡県北九州市戸畑区千防一丁目1-6		
自己評価作成日	平成29年8月20日	評価結果確定日	平成29年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

家庭的な雰囲気を実感しながら、入居者の生活リズムを尊重し、柔軟な対応をする努力をしている。入居者のストレスを溜めないために外出の機会を出来るだけ多く持ち、雨天時にも併設事業所を散策して気分転換を図ることができる。また、季節感を感じられるようなユニット内での装飾、季節の食材を使った料理等の工夫をおこなっている。夜間はオンコール体制であるが、24時間看護サービスを提供できる。複合施設であることから多くの研修機会や委員会等の参加が可能であり、介護職員のスキルアップで福祉サービスレベルの向上を図っている。ボランティアを多く受け入れており、特養・ケアハウス・デイサービスに求められるボランティア活動のサービスを楽しむこともできる。グループホーム内には、ショートステイを提供しており、地域の認知症高齢者の支援や介護者の介護負担軽減に対応できるようにしている。有料サービスではあるが、出張理美容サービス、同じ建物にある喫茶コーナーでは多彩なメニューを楽しむこともできる。地域との交流も重点的に進めていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北九州市の計画した福祉の街作りを担うC街区に位置する「グループホームとばた」は区役所とも隣接した利便性のよい立地にある。10年ほど前に特養、ケアハウスなどと併設して建てられた複合型施設で、大本の母体法人は福祉系の学校も持つ学校法人であり、実習の受け入れや新卒者の採用などでの連携もよくとられている。広い敷地の中は一つの街のように、緑が多く、小高い丘や庭、カフェなども運営されている。開放的な施設で、職員間のコミュニケーションもよくとられており、離職率も低く長く勤める職員も多い。複合施設としての強みを生かし、お互いにアドバイスをしたり、状態に応じた住み替えを提案したり、職員協力もされている。日頃は入居者本人の思いを大事に、事業所の都合を押し付けないケアを心がけており、今年は外出に特に力をいれている。地域の信頼も厚く、常に空室待ちもいる状態であり、今後もさらに地域に根差した活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項 目	自己評価(もみじ)	自己評価(わかば)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の尊厳を守り、選択によるサービスの提供を行い、自立を支援すること、また、地域福祉のネットワークの一員として福祉のまちづくりに励む」という事業所独自の理念を掲げて努力している。	「利用者の尊厳を守り、選択によるサービスの提供を行い、自立を支援すること、また、地域福祉のネットワークの一員として福祉のまちづくりに励む」という事業所独自の理念を掲げて努力している。	法人全体の経営理念と5つの基本方針が定められ、玄関やパンフレットにも掲示されている。名札の裏にも入れ込んでおり、いつでも見られるようにしている。毎週金曜の定時研修で理念をテーマにしたものがあり、全職員が必ず年に1回は参加する。「一人ひとりをたいせつに」という、モットーと心得があり、考えの基本としている。	何となくはなしにそこに理念がある、という状態にはなっているが、改めて理念に向き合ってみ直す機会として、ミーティングの時に振り返ったり、グループホーム単独での話し合いの場が持たれることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーでの買い物やホーム周辺の公園などへ出かけ、近所の人たちとのコミュニケーションも図っている。また、月一回地域で開催されている連絡調整会議に参加し、地域の方との情報交換を行っている。	近所のスーパーでの買い物やホーム周辺の公園などへ出かけ、近所の人たちとのコミュニケーションも図っている。また、月一回地域で開催されている連絡調整会議に参加し、地域の方との情報交換を行っている。	隣接して、他法人の運営する保育所や障がい施設があり、相互に行き来して交流の機会ももたれている。窓外にも保育園の様子が望め、入居者の癒しにもなっている。複合施設としては、地域に開放した研修や、空き施設の貸し出しなどにも提供している。系列に教育機関もあり、実習の受け入れや、中学校の職場体験などもある。	法人全体としては地域との関わりがあるが、グループホームとしての関わりの弱い部分がある。認知症対応としての強みを生かして、キャラバンメイトやサポーター養成などの啓もう活動や情報発信、地域の方をお招きするような行事活動など、より個別に知っていただくような動きも検討されてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域恒例の戸畑区福祉まつりに参加・協力させて頂いている。また、運営推進会議において、毎回介護教室を実施している。	地域恒例の戸畑区福祉まつりに参加・協力させて頂いている。また、運営推進会議において、毎回介護教室を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告や今後の予定などを話し、現状の理解を求め、地域での今後の取り組み方などについて自由に意見を言っていたり、意見をもとにサービスの向上に活かせるようにしている。また、ご家族へ参加の案内を全員にし、会議を通じご家族へサービスの実施状況、評価への取り組みを報告している。不参加の方には、議事録の掲示や面会時の説明で対応している。	活動の報告や今後の予定などを話し、現状の理解を求め、地域での今後の取り組み方などについて自由に意見を言っていたり、意見をもとにサービスの向上に活かせるようにしている。また、ご家族へ参加の案内を全員にし、会議を通じご家族へサービスの実施状況、評価への取り組みを報告している。不参加の方には、議事録の掲示や面会時の説明で対応している。	2ヶ月ごとに定期開催し、地域包括支援センター、民生委員、ご家族にも参加してもらっている。案内状は家族全員に発送し、大体2、3人が来られており、併設カフェの代表に来てもらうこともあった。毎回テーマを決めて勉強会も行う。ヒヤリハット報告や行事報告をしており、参加者から地域情報を頂くこともある。議事録は掲示により公開している。	あまり来られてないご家族に来ていただくきっかけづくりとして、開催曜日を変えて、行事と同日開催にしたり、昼食会形式や茶話会のような気軽な形式の検討をされてはどうだろうか。また、町内会長や区長など新たな地域関係者とのきっかけづくりとして運営推進会議が活用されることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者や市のグループホーム担当者の相談助言をいただくこともあり、市の広報は行政からの情報収集に欠かせない。介護保険に限らず、防災対策でも相談指導をいただく関係を継続している。	地域包括支援センターの担当者や市のグループホーム担当者の相談助言をいただくこともあり、市の広報は行政からの情報収集に欠かせない。介護保険に限らず、防災対策でも相談指導をいただく関係を継続している。	区役所と隣接していることもあり、行き来もしやすく、介護更新なども持参している。運営推進会議には地域包括から来てもらっておりその際に事業報告を行う。空き室情報は毎月FAXにより報告する。介護保険に関しての質問等も法人内で解決することも多く、法人と役所との関係で完結されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の状態に合わせて日々相談しながらケアを行っており、拘束をしないケアを行う為、毎月研修・指導をしている。出入り口が道路に近いことや職員配置が1名に時間帯等は危険な為、状況に応じて鍵をかける時もあるが居室のドアやベランダへ出る扉には鍵をかけないケアに取り組んでいる。	個々の状態に合わせて日々相談しながらケアを行っており、拘束をしないケアを行う為、毎月研修・指導をしている。出入り口が道路に近く危険であることや帰宅希望の利用者がいる為、鍵をかける時もあるが居室のドアやベランダへ出る扉では鍵をかけないケアに取り組んでいる。	原則的に、身体拘束をしない方針であり、法人として身体拘束廃止委員会も組織している。定期研修でも拘束廃止について勉強しており、全職員が参加するようにしている。基本的に日中は玄関も開放しており、所内も自由に行き来できる。数年前に離設が続いた時期があり、それ以降は補助錠の設置やセンサー設置などで予防されている。スピーチロックに関しては職員アンケートなどで意識づけもしている。	

H29.9自己・外部評価表（GHとばた）

自己	外部	項 目	自己評価(もみじ)	自己評価(わかば)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待防止についての研修を実施。また、職員のストレスを溜めこまないようミーティングを毎月行い、入居者と職員の関係が良好になるようにしている。	毎月虐待防止についての研修を実施。また、職員のストレスを溜めこまないようミーティングを毎月行い、入居者と職員の関係が良好になるようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回実施している認知症ケア会議で、権利擁護と成年後見制度についての研修を行った。また、運営推進会議において権利擁護に関する制度の説明を行った。	月一回実施している認知症ケア会議で、権利擁護と成年後見制度についての研修を行った。また、運営推進会議において権利擁護に関する制度の説明を行った。	現在、成年後見制度利用の方がいるが、入居前から使われていた。毎年定期的に、権利擁護制度に関して内外の研修があり職員も一般的な知識を理解している。以前関係があった司法書士の方もおり、必要時には相談することもできる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には入居により利用できるサービス内容の説明と施設見学を行っている。入居後や、退去時にも不安や疑問点について納得いただけるまで説明を行っている。	ご家族には入居により利用できるサービス内容の説明と施設見学を行っている。入居後や、退去時にも不安や疑問点について納得いただけるまで説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットにご意見箱を設置し、自由に意見を言って頂き、サービスの向上に活かせるようにしている。また、ご家族へ会議の参加の案内をし、会議を通じご家族へサービスの実施状況、評価への取り組みを報告している。不参加の方には、議事録の掲示や面会時の説明で対応している。	現状の理解を求め、地域での今後の取り組み方などについて自由に意見を言っていただき、サービスの向上に活かせるようにしている。また、ご家族へ参加の案内を全員にし、会議を通じご家族へサービスの実施状況、評価への取り組みを報告している。不参加の方には、議事録の掲示や面会時の説明で対応している。	ご家族からの要望は面会時に聞くことが多いが、個別の希望がほとんどである。8割がたの家族は毎月1回以上面会に来ている。2ヶ月ごとに事業所の広報誌を発行し、事業報告と、個別の写真付きの状態の報告を行っており、家族にも喜ばれている。	なかなか表面化してこない意見を聞き取る仕組みとして、法人から満足度調査やアンケートなどの意向調査を実施してはどうだろうか。また、意見箱を活用するために、用紙をあらかじめ配布して面会時に気軽に入れられるようにしたり、設置場所の再考してもよいのではないかな。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員の意見は聞く体制でおり、実施したい行事等についても職員が持ち回りで企画を決め実施される。職員の意見がより反映されるようにしている。	随時職員の意見は聞く体制でおり、実施したい行事等についても職員が持ち回りで企画を決め実施される。職員の意見がより反映されるようにしている。	ユニット単位のミーティングと全体の会議がそれぞれ月1回あり、その時の出勤者で話し合われている。担当する入居者の状況や状態について情報を共有し、会議時の意見も言いやすく、日頃からもよく連携がとられており、要望に対しての反映も迅速にされている。法人内の上長との個別面談の機会も持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者としても調整を行っているが、職員間でも協力し各自で相談後、無理のない勤務体制を整え、行事や入居日は十分な人員が配慮できるようにしている。	管理者としても調整を行っているが、職員間でも協力し各自で相談後、無理のない勤務体制を整え、行事や入居日は十分な人員が配慮できるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別では除外しないよう対応している。また常勤職員は60歳定年であるが、希望する職員全員65歳まで継続して雇用している。また働く職員についてもその能力に応じた適材適所の人員配置、養成研修を心がけている。	職員の募集・採用にあたっては性別では除外しないよう対応している。また常勤職員は60歳定年であるが、希望する職員全員65歳まで継続して雇用している。また働く職員についてもその能力に応じた適材適所の人員配置、養成研修を心がけている。	男性職員は若干名おり、全体では30～70歳代まで幅広い年代の職員が配置されている。常勤の定年はあるが、非常勤の場合は単年更新で70を超えても勤めることができる。休憩時間や休憩室も確保されており、メリハリのついた勤務が出来る。研修にも力を入れており、毎週の内部研修の交代による参加や、外部講師による研修、外部研修の参加機会も積極的に持たれている。	

H29.9自己・外部評価表（GHとばた）

自己	外部	項 目	自己評価(もみじ)	自己評価(わかば)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は採用時に利用者に対する人権尊重の研修を行っている。また、倫理綱領により人権を尊重する具体的な働く姿勢の確認ができるよう、定期的に職業倫理について研修を行っている。	職員は採用時に利用者に対する人権尊重の研修を行っている。また、倫理綱領により人権を尊重する具体的な働く姿勢の確認ができるよう、定期的に職業倫理について研修を行っている。	毎週行われる定期研修の中で、人権学習に関しての内部研修も企画されており、全職員が年1回は各テーマのものを受講するようにしている。倫理や法令遵守に関しての研修テーマもあり、法人全体で取り組む仕組みが作られている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では各施設共通で新任研修や各種研修を頻繁に実施している。必要に応じ外部の研修には参加する機会を設け、研修で得た知識を法人内で発表し他職員へ伝え職員全体のスキルアップに繋がるように努めている。自己啓発に活用できる書籍を購入し、専門的知識および技能習得を支援している。	法人内では各施設共通で新任研修や各種研修を頻繁に実施している。必要に応じ外部の研修には参加する機会を設けるなど研修受講機会の確保に努めている。自己啓発に活用できる書籍を購入し、専門的知識および技能習得を支援している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の施設訪問や研修先での情報交換等から、日常的な課題について、また地域交流の現状や方法などについて意見交換を行った。現在では地域交流の考え方や利用者のサービス向上に役立っている。	地域の同業者の施設を訪問や研修先での情報交換等から、日常的な課題について、また地域交流の現状や方法などについて意見交換を行った。現在では地域交流の考え方や利用者のサービス向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に対する事前面接で、生活上の課題を把握し、安心して施設での生活が送れるように配慮している。また、話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。	利用者に対する事前面接で、生活上の課題を把握し、施設での生活に不安を抱くことが少なくなるよう必要な聞きとりを行っている。また、話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には入居により利用できるサービス内容や支援内容について説明している。入居後も、相談しやすい環境の提供の提供に努めている。	ご家族には入居により利用できるサービス内容をしっかりと説明し、施設見学も含め、納得をされた上で利用者の入居をしていただくようにしている。また、入居に至ってからも、相談しやすい環境の提供をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時や申込時のグループホームでのサービスが本人にとって好ましいか現状の把握に努め、必要に応じて他のサービス利用の検討を本人、家族等へ提案し、他のサービス利用時にも支援している。	相談受付時や申込時のグループホームでのサービスが本人にとって好ましいか現状の把握に努め、必要に応じて他のサービス利用の検討を本人、家族等へ提案し、他のサービス利用時にも支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な方には、生活リハビリとして自室や廊下の掃除機かけや洗濯物を畳む等の作業を行って頂いている。園芸や料理等生活の中でスタッフがわからないことを教えて頂くなど、自信や生きがいを持って頂ける事を大切に共に生活している。	可能な方には、生活リハビリとして自室や廊下の掃除機かけや洗濯物を畳む等の作業をしていただいている。リビングや各居室でもコミュニケーションを図り笑いがある。園芸や料理等生活の中でスタッフがわからないことを聞いたりして学ぶこともある。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に対する認識と介護サービスの方向性を家族の方と話し合い共に話し合い、利用者に対する処遇が一致するようコミュニケーションを深め、利用者の日頃の状態を家族に報告することで話題を共有する努力をしている。	利用者に対する認識と介護サービスの方向性を家族の方と話し合い共に話し合い、利用者に対する処遇が一致するようコミュニケーションを深め、利用者の日頃の状態を家族に報告することで話題を共有する努力をしている。		

H29.9自己・外部評価表（GHとばた）

自己	外部	項 目	自己評価(もみじ)	自己評価(わかば)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の面会や利用者のなじみの場所への外出など帰宅願望が生じることも考慮しながらも、利用者や家族に負担が重くならない範囲で関係継続を支援している。	昔からの友人の面会や利用者のなじみの場所への外出など帰宅願望が生じることも考慮しながらも、利用者や家族に負担が重くならない範囲で関係継続を支援している。	区内に自宅のあった方を、年に何度かお連れして近隣の知人との交流を継続する支援を行っている。家族に連れ出してもらって美容室に行く方もいる。新たに施設を中心とした馴染みの関係が出来るように、職員が間に入って働きかけることもある。一時帰宅や外泊をされたり、家族と共に継続して教会などに行く方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から一緒に外出したり、手分けして食事の準備をするなどして利用者同士が関わりあい支えあえる関係を築けるようにしている。	普段から一緒に外出したり、手分けして食事の準備をするなどして利用者同士が関わりあい支えあえる関係を築けるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には相談の必要性があればいつでも対応できることを家族へお伝えし、認識していただくつもりである。また、可能であれば転居先に出向き交流を続けている。	退去時には相談の必要性があればいつでも対応できることを家族へお伝えし、認識していただくつもりである。また、可能であれば転居先に出向き交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが利用者の意向を聞く努力を継続し、3ヶ月ごとのモニタリングと6ヶ月ごとの見直しをケアプランに反映して利用者の希望に沿った援助計画を立てている。	スタッフが利用者の意向を聞く努力を継続し、3ヶ月ごとのモニタリングと6ヶ月ごとの見直しをケアプランに反映して利用者の希望に沿った援助計画を立てている。	意思疎通の難しい方には選択肢を絞って、やりたいことを選んでもらったりして、要望を聞くようにしている。ユニットごとにアセスメントの様式は異なるが、センター方式の一部活用やひもときシートを使ったものなど、逐次改善しながら、使いやすいものを目指している。2Fユニットでは短期目標とは別個に目標設定をしており、意欲の引き起こしにつながっている	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や入居に至ってから家族や利用者から可能な限り日常の会話等の中でこれまでの生活情報を聞き出すように努力し、介護サービスに生かせるようにしている。	事前面接や入居に至ってから家族や利用者から可能な限り日常の会話等の中でこれまでの生活情報を聞き出すように努力し、介護サービスに生かせるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方の特徴や心身の状態、特技などを把握し、より良い生活支援ができるようにしている。より詳しく本人を知る為に、ひもときシートを作成し、本人を包括的に理解できるようにしている。	一人ひとりの一日の過ごし方の特徴や心身の状態、特技などを把握し、より良い生活支援ができるようにしている。より詳しく本人を知る為に、情報シートを作成し、本人を包括的に理解できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の方の意見・要望は可能な限り取り入れ、複数のスタッフとカンファレンスを随時行い、介護の方向性を話し合い介護計画に反映している。	利用者や家族の方の意見・要望は可能な限り取り入れ、複数のスタッフとカンファレンスを随時行い、介護の方向性を話し合い介護計画に反映している。	担当者を中心にして、各入居者の状況を把握しており、ケアカンファレンスで情報を確認する。プランごと目標実施チェック表があり、それによって事業所全体でケアプランチェックを実習している。プラン変更時に必要があれば、他職種からの情報提供や相談をしたうえで目標設定などに活かしている。	

H29.9自己・外部評価表（GHとばた）

自己	外部	項 目	自己評価(もみじ)	自己評価(わかば)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、診療記録、連絡ノート等でスタッフ間の情報を共有して介護計画の見直しとその実践に生かしている。	個人記録、診療記録、連絡ノート等でスタッフ間の情報を共有して介護計画の見直しとその実践に生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養、ケアハウス、ショートステイ、デイサービス等の施設があり、共通で対応できるボランティア活動、リハビリ機器の使用、定期診療、24時間看護体制などのサービスを提供している。また、地域の認知症の方の支援や介護者の介護負担軽減できるよう、ホーム内にてショートステイを行っている。	特養、ケアハウス、ショートステイ、デイサービス等の施設があり、共通で対応できるボランティア活動、リハビリ機器の使用、定期診療、24時間看護体制などのサービスを提供している。また、地域の認知症の方の支援や介護者の介護負担軽減できるよう、ホーム内にて、認知症デイサービスやショートステイを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加や行事へのボランティア要請、地域活動や行事への参加、消防訓練などで地域の方々に協力していただいている。	運営推進会議への参加や行事へのボランティア要請、地域活動や行事への参加、消防訓練などで地域の方々に協力していただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の近くにある協力医療機関以外にも個々に必要な医療機関へ受診していただいている。また、かかりつけ医には状況を把握していただけるよう情報を提供している。	施設の近くにある協力医療機関以外にも個々に必要な医療機関へ受診していただいている。また、かかりつけ医には状況を把握していただけるよう情報を提供している。	希望があれば、以前からのかかりつけ医を継続することもできるが、事業所の提携医であれば往診を受けることもできる。家族が通院介助することもあり、その際は逐次情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を配置している。また、24時間体制で対応できるよう法人全体で看護体制を整えている。	職員に看護師を配置している。また、24時間体制で対応できるよう法人全体で看護体制を整えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者入院中に職員と家族が面会し、利用者が状況の変化に動揺しない安心して過ごせるよう配慮している。また、退院に際しては、職員が医師、MSWおよび家族と相談し、早期退院へ向けた連絡、調整を行っている。	入居者入院中に職員と家族が面会し、利用者が状況の変化に動揺しない安心して過ごせるよう配慮している。また、退院に際しては、職員が医師、MSWおよび家族と相談し、早期退院へ向けた連絡、調整を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医との連絡を取り合い、終末期のケアについて医療・看護・介護・栄養・相談の各担当者チームによる施設独自の体制をつくり、出来る限り家族の意向に沿うケアになるよう取り組んでいる。	協力医との連絡を取り合い、終末期のケアについて医療・看護・介護・栄養・相談の各担当者チームによる施設独自の体制をつくり、出来る限り家族の意向に沿うケアになるよう取り組んでいる。	今までに看取った事例はなく、入居時にアンケートを取得し、将来の看取りに関しての意思確認なども行っている。重度化の際は系列特養との協力などで住処をする方もいる。毎週の勉強会で看取りや医療に関する研修絵え実施している。グループホーム内に常勤の看護師がおり、医療対応なども行っている。	

H29.9自己・外部評価表（GHとばた）

自己	外部	項 目	自己評価(もみじ)	自己評価(わかば)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の申し送り等から必要時には、看護師や嘱託医に状態報告し、指示を受けながら対応している。入浴前にはバイタル測定し、利用者の体調管理に努めている。	日々の申し送り等から必要時には、看護師や嘱託医に状態報告し、指示を受けながら対応している。入浴前にはバイタル測定し、利用者の体調管理に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により消防訓練や昼夜間の避難訓練を実施している。緊急時には、法人の同じ建物内にある特養、ケアハウス、デイサービス等の他の事業所の協力も得ることができる。	消防署の協力により消防訓練や昼夜間の避難訓練を実施している。緊急時には、法人の同じ建物内にある特養、ケアハウス、デイサービス等の他の事業所の協力も得ることができる。	年2回、系列の事業所と合同で、夜間想定も含め、法人全体での訓練を実施している。鉄筋コンクリートの丈夫な造りで、火災にも強く、地域の方の避難場所としても提供している。施設全体で全員の3日分の備蓄物も確保しており、期限間近な物も逐次提供して入れ替えも行っている。	地域が行う訓練などの実施状況の情報収集や、事業所で行う訓練に、地域の方や近隣のご家族へのご案内、参加の呼びかけをしてはどうだろうか。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切に言葉かけや対応に努め、不適切な点はスタッフ同士でも注意するようにしている。記録等はスタッフルーム内のパソコンで管理し、重要な情報はパスワードが必要とし、外部から閲覧できない。また、定期的に個人情報保護についての研修を行っている。	利用者の尊厳を大切に言葉かけや対応に努め、不適切な点はスタッフ同士でも注意するようにしている。記録等はスタッフルーム内のパソコンで管理し、重要な情報はパスワードが必要とし、外部から閲覧できない。また、定期的に個人情報保護についての研修を行っている。	入居者への呼びかけや働きかけの時も、選択肢を設けて、判断を決めつけないように気を付けている。内部研修の中で、定期的に接遇・マナーや個人情報管理をテーマにしたものを行っている。写真の利用に関しても、利用目的を明示したうえで所内掲示などに許可を頂いている。プライバシーへの配慮も、入浴や排泄介助の際に希望があれば同性介助をするようにもしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で選択可能なサービスメニューを提供しているが、意思表示が困難な利用者には、外出や散歩など選択しやすい場面を設け、利用者に意思決定していただき、より良く生活できるようにしている。	様々な場面で選択可能なサービスメニューを提供しているが、意思表示が困難な利用者には、外出や散歩など選択しやすい場面を設け、利用者に意思決定していただき、より良く生活できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務時間という制約はあるが、出来る限り一人ひとりの生活リズムを大切にいただくとともに、規則正しく過ごしていただくように努力している。	勤務時間という制約はあるが、出来る限り一人ひとりの生活リズムを大切にいただくとともに、規則正しく過ごしていただくように努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の行きつけの理・美容店に行けるようにしている。出来る限りご本人氏にお好きな洋服を選んで頂けるよう働きかけをしている。	職員の中に理容師免許取得者がおり、希望であればいつでも散髪できるようにしている。また、ご本人の行きつけの理・美容店に行けるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、料理、盛り付け、片付けなどの活動を利用者と職員が一緒に行う事は、一体感を生むうえでも大切だと考えている。お互い助け合いながら、いつも楽しくなる食事となるよう支援している。	買い物、料理、盛り付け、片付けなど活動を利用者と職員が一緒に行う事は、一体感を生むうえでも大切だと考えている。お互い助け合いながら、いつも楽しくなる食事となるよう支援している。	施設全体の厨房があり、通常はごはん以外の食事は全て配食されている。月曜の夕方のみ、事業所内での調理にしており、食材の買い出しから調理まで入居者にも手伝ってもらいながら行っている。おやつは事業所で準備し、敷地内のカフェに行ったり、外食に出ることも多い。職員は希望すれば同じものを食べることもできる。食事委員会もあり、感想や要望などをあげられ、選択食がとれる仕組みもある。	

H29.9自己・外部評価表（GHとばた）

自己	外部	項 目	自己評価(もみじ)	自己評価(わかば)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を立て栄養管理している。水分量については、病状に応じて適切な水分量を摂取できるようにしている。	法人内の管理栄養士が献立を立て栄養管理している。水分量については、病状に応じて適切な水分量を摂取できるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	援助が必要な方には、毎食後、義歯洗浄・歯磨きの援助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。必要時には訪問歯科を利用できるようにしている。	援助が必要な方には、毎食後、義歯洗浄・歯磨きの援助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。必要時には訪問歯科を利用できるようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パソコンによるデータ管理を使用し、排泄パターンを把握。定時誘導や必要に応じてトイレ誘導している。自然排便を促進するため、乳酸菌等の摂取を積極的に行っている。	パソコンによるデータ管理を使用し、排泄パターンを把握。定時誘導や必要に応じてトイレ誘導している。自然排便を促進するため、十分な水分補給と乳酸菌入り飲料の摂取等を積極的に行っている。	全居室内にトイレが設置されており、全員が自分のペースで排泄することが出来る。自力排便を促すために食事やマッサージなどでケアを行い、便秘が続いた場合は医師の判断や看護師との協力の者として処置も行っている。申し送りや情報の共有によって入居者それぞれの状態に応じて紙から布に変えたり、バットの大きさを変えたりと、職員同士で話し合って工夫しながら対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつにも排便につながるような配慮をおこない、水分摂取の少ない方には職員が積極的な声かけをしている。特に便秘気味の方には、食物繊維食品の提供をしている。	食事やおやつにも排便につながるような配慮をおこない、水分摂取の少ない方には職員が積極的な声かけをしている。特に便秘気味の方には、食物繊維食品の提供をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽は個浴であり、一人ひとりがゆったりと入浴を楽しめるように配慮している。また、入浴パターンがある程度決まっており、その中で声掛けしながら調整している。	浴槽は個浴であり、一人ひとりがゆったりと入浴を楽しめるように配慮している。また、入浴パターンがある程度決まっており、その中で声掛けしながら調整している。	個浴型の浴槽で、広めの浴室に三方向を開けた形で配置されており、2人介助もしやすい。基本的には週2回だが、夏場など希望があればシャワー浴などで毎日の対応もすることが出来る。拒まれる方には担当や時間をかえて無理強いせずに対応するようにしている。時間帯も比較的柔軟な提供がされている。お湯も一人ずつ入れ替え、入浴剤を使ったり、音楽を流したりと入浴が楽しめるような働きかけもある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を基本とし、レクリエーションや散歩なども強制せず、利用者の生活リズムを把握しそれに合わせて安眠や休息の支援をしている。	規則正しい生活を基本とし、レクリエーションや散歩なども強制せず、利用者の生活リズムを把握しそれに合わせて安眠や休息の支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況は専用のボックスにて仕分けし、一括管理できるようにしている。また、職員はくすり手帳で薬の内容を把握し、服薬支援時は職員が薬包紙の患者名投薬日時の確認を行い、誤薬の無いようにしている。	服薬状況は専用のボックスにて仕分けし、一括管理できるようにしている。また、職員はくすり手帳で薬の内容を把握し、服薬支援時は職員が薬包紙の患者名投薬日時の確認を行い、誤薬の無いようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日頃の状況から興味・関心分野を把握し、一人ひとりに合った作業等を提供する努力をしている。書道教室や歌を歌ったり、カラオケやゲームをしたり、時間の許す限り気晴らしのための支援もしている。	生活歴や日頃の状況から興味・関心分野を把握し、一人ひとりに合った作業等を提供する努力をしている。歌を歌ったり、ボードゲームをしたり、時間の許す限り気晴らしのための支援もしている。		

H29.9自己・外部評価表（GHとばた）

自己	外部	項 目	自己評価(もみじ)	自己評価(わかば)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの場所や保育所、近くの銭湯、戸畑祇園大山笠、菖蒲まつりなどにお連れしている。地域の祭りや行事に参加頂き、喜ばれている。	保育所、戸畑祇園大山笠、菖蒲まつり、等へ利用者を家族・ボランティアと共に連れ出し、喜ばれている。	外出機会を積極的に持つようにしており、日頃の散歩のほか、週1回程度はドライブに行ったりすることもあり。雨天時でも敷地内を安全に移動することが可能で、窓外に望める保育園の様子は目を楽しませる。計画的な外出行事のほか、柔軟にその日の天気や要望などを元に外出を楽しんでいる。個別ケアによる外出の機会も多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は施設で行っている。管理可能な方や精神的な落ち着きのために所持していただくこともある。買い物に出かけた時も支払いを本人にさせていただくこともある。	基本的には金銭管理は施設で行っている。管理可能な方や精神的な落ち着きのために所持していただくこともある。買い物に出かけた時も支払いを本人にさせていただくこともある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、施設の公衆電話利用の付添い、かかってきた電話の取り次ぎ、携帯電話所持の自由さなど可能な限り自己選択を支援している。また、手紙の代筆やポストへの投函の付き添い・代行も行っている。	電話は、施設の公衆電話利用の付添い、かかってきた電話の取り次ぎ、携帯電話所持の自由さなど可能な限り自己選択を支援している。また、手紙の代筆やポストへの投函の付き添い・代行も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの家具等は家庭で使用していた物を配置し、生活感が感じ取れる環境作りに努めている。また、リビングから庭が見えるので、季節感のある植物などを植え季節を感じていただけるようにしている。また、リビングにて提供する食事にも季節感をとり入れ、居心地のよい空間作りを工夫している。	リビングの家具等は家庭で使用していた物を配置し、生活感が感じ取れる環境作りに努めている。また、リビングから庭が見えるので、季節感のある植物などを植え季節を感じていただけるようにしている。また、リビングにて提供する食事にも季節感をとり入れ、居心地のよい空間作りを工夫している。	全館フローリング調のビニール床で間い移されており、明るめの木調と土壁風の壁紙で落ち着いた雰囲気である。入居者の写真や、日本画などの飾りつけがされているが、過度にはされておらず適度な彩を与えている。ダイニングテーブルは大中あり、お互いの関係を見ながら適度に配置したり、長くつなげてレクを楽しんだりもしている。建物周囲の環境もゆとりをもって配置されており開放感がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのテーブルが基本になるが、他にソファを設置し、仲の良い利用者同士が好きな場所で過ごしていただけるような座席配置等の配慮をしている。	リビングでのテーブルが基本になるが、他にソファを設置し、仲の良い利用者同士が好きなところで過ごしていただけるような座席配置等の配慮をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感が感じ取れる環境作りになるよう努めている。個室のレイアウトや私物の持ち込みは基本的には自由である。今まで馴染みのある物品を持ち込んでいただくようにしている。	生活感が感じ取れる環境作りになるよう努めている。個室のレイアウトや私物の持ち込みは基本的には自由である。今まで馴染みのある物品を持ち込んでいただくようにしている。	居室は8畳程度と広めで、ホールと同様、フローリング調のビニールマットで清潔にされており、トイレ、洗面所も完備である。木調の電動介護ベッドが備え付けで、タンクも必要に応じて事業所から提供されている。ベッド用の介助手すりも希望によって取り付けることも可能である。大き目の掃き出し窓が各部屋に備わり、室内も明るい。希望があれば畳に布団で寝ることも出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベランダで鉢植えやプランタンでの野菜の栽培を利用者は楽しんでいる。また、洗濯物を干したり、施設からふれあいの丘（公園）までの散歩道があり、居宅での生活に近い楽しみがある。	庭には畑を作り、花や野菜の栽培を利用者は楽しんでいる。また、洗濯物を干したり、施設からふれあいの丘（公園）までの散歩道があり、居宅での生活に近い楽しみがある。		